



暦の上では春を迎えました。まだまだ寒い日が続いていますが、少しずつ春が近づいてきています。各学級では、1年のまとめである「生き生き学習発表会」に向けて力が入っています。

早いもので、卒業式まで40日余りとなりました。6年生は卒業・進学に向けて、1・2・3・4・5年生は進級に向けて、一日一日を大切に過ごしてほしいと願っています。

給食週間の取組から

1月25日から29日までを給食週間とし、この間様々な取組をしました。

感謝の気持ちを込めて・・・

地場産の野菜や米を提供していただいている生産者の方々と給食調理員さんへ、感謝の気持ちをこめて手紙や色紙などをお届けしました。



楽しい給食集会

給食委員が中心となり、給食に関するクイズ、本の読み聞かせをしてくれました。また、豆つかみのゲームを楽しみました。工夫された内容に感心しました。



その他にも、たてわり給食、「伝統料理を献立に取り入れる」などの取組を行いました。

地域の生産者の方や調理員さんらの温かいお心とご配慮のおかげで、「おいしい給食」がいただけることに改めて感謝したいと思います。ありがとうございます。

本気で取り組んだ！なわとび大会

2月4日、なわとび大会を行いました。集中して取り組む「いい顔」とたくましい姿を見せてくれました。一人一人の伸びを実感できる大会となりました。

また、持久とびで10分間とび続けた人が14名いました。素晴らしい記録だと思います。



子どもの「前向きに力強く生きる力」を伸ばすために

子どもたちには、前向きに力強く生き抜いてほしいと願っています。そのためのポイントは「素直な心」「努力する姿勢」「がまんの心」「自立心」「積極性」などいくつもあると思います。その中で、今回は、「素直な心」を挙げたいと思います。

素直な心は、伸びを左右する最も大切な要素だと考えます。素直な心であれば、親や教師等からのことばを受け止め、吸収し、改善していくことができます。松下幸之助氏は、「順境でもうぬぼれず、逆境でもひねくれず、素直に受け入れる。そうすると、何事も前向きに行動でき、力強く成長できます。また、私心にとらわれないということは、他人の利益や喜びも考えるようになります。これが素直な心の基本です。」と述べておられます。

では、素直な心を育てるために、どんなことが大切なのでしょう。これもまた、いくつも考えられますが、ここでは次の3点を挙げたいと思います。

- ・素直な心の大切さを子どもと共有すること
- ・生活環境を整えた上で、コミュニケーションの場を増やすこと
- ・しっかりほめること

コミュニケーションの場が増えれば、素直に他人のことばを受け入れたり、素直に意見を伝えたりする場が増え、素直な心が育っていくものと思います。また、ほめられると自信につながり、もっと努力しようと思うようになります。自信がついて余裕が出てくると、人のことばも素直に受け入れられるようになるものと確信します。学校でもこれらのことを改めて意識し、活動を進めていきます。

